

# 親の教育の自由と学校・教師の役割

大西 圭介（筑波大学大学院／教育行政学）

## バイバイ、ママ

（原題：Loverboy）

- ◆ 種別：DVD ビデオ（映画）
- ◆ 監督：ケヴィン・ベーコン
- ◆ 製作年：2004 年
- ◆ 製作国：アメリカ合衆国
- ◆ 発売元／販売元：（株）アートポート
- ◆ 時間：本編 86 分
- ◆ 音声：英語／日本語
- ◆ 字幕：日本語／吹替用



© 2004 LOVERBOY PRODUCTIONS LLC

### あらすじ

完全な放任主義で育てられ、幼少時代を孤立に過ごしたエミリーは、「夫はいらない。ただ私を愛し、私が深い愛情で包んであげられる自分の子どもを何としても手に入れたい」と考えていた。そして、エミリーは、やっとの思いで産まれた自分の子どもには惜しみない愛情を注ぎようと決意する。エミリーは、自らシングルマザーとなり、誰にも干渉されることなく息子ポールのために全てを捧げ、二人だけの世界を作り上げていく。その甲斐あってか、ポールは利発で想像力豊かな子供に育つ。エミリーにとって、ポールが世界の中心であり、二人で過ごす時間だけが人生の全てだった。しかしながら、6 歳になったポールは、友達とも遊べず、学校にも行かせてもらえない生活に疑問を抱き始める。独立心が芽生え、新しい世界を求め母親のもとから飛び立とうとする息子を、エミリーは引きとめようと躍起になる。しかしながら、ポールが学校に行くようになり、二人だけの世界を満たすことができなくなった。そして、エミリーはとある行動をとろうとする…。

### Chapter

- |                   |
|-------------------|
| 1. 父親選び／7'16      |
| 2. ミセス・パーカー／7'21  |
| 3. 愛しのベイビー／8'59   |
| 4. 父親マーティ／5'49    |
| 5. 外の世界／6'37      |
| 6. ヒナドリ／6'23      |
| 7. マーク／8'26       |
| 8. 不安な心／8'11      |
| 9. 小学校入学／4'25     |
| 10. ウソ／8'16       |
| 11. 受け入れ難い現実／5'35 |
| 12. 旅立ち／11'11     |

### シーン再現

＜向かいに住む、ポールと同学年の子ども（アリソン）を持つ母親（アニータ）が、エミリーのもとに小学校の入学届を持ってくる場面＞

アニータ：小学校の入学届よ。

エミリー：悪いけど…必要ないわ。

アニータ：ポールにもお友達が必要だわ。  
アリソンも学校に通いだしてとって  
も成長したのよ。ずっと行かないわけ  
にはいかないし、いつかは行かなきゃ。  
ポール：僕、学校に行きたい。バスにも乗  
りたい。

エミリー：行けるわ。  
ポール：いつ？  
エミリー：クリスマスの後か、もう少  
し先…また今度。  
アニータ：何が教育なんだか…ご立派  
な母親なこと…。

## 教育学の視点から



本映画において、エミリーは、学校教育を受けているときに周りの子どもと触れ合うことをせず、自らの家庭教育を多様な価値観に照らし合わせて振り返ろうとしなかった。エミリーは、教育体験を自らの視点でのみ見詰め、ポールに注ぐ愛情と教育を決定した。エミリーには、保護者として、教育の自由がある。保護者には教育の自由が保障されるべきものであるが、本映画では、結果的に悲劇を招いてしまった。悲劇を防ぐことはできなかったのであろうか。悲劇を防ぐために、学校教育の役割が大きいと思われる。なぜなら、子どもたちにとって、学校教育は、多様な価値観に触れる機会としての役割を果たしていると考えられるからである。

しかしながら、エミリーにとっては、多様な価値観に触れる機会としての学校教育の役割が機能していなかった。そのような学校教育の役割を機能させるために、教師はどのような役割を果たすのであろうか。

これまで、日本を含む東アジアでの教師の役割は「授業」を通じて、知識を教授することだと考えられてきた。他方、欧米では、「授業」を通して、学習者の思考や態度を形成することだと考えられてきた。つまり、教師の役割は「授業」にあると考えられてきたのである。確かに、欧米では、現代においても教師は教える職業であるため、「授業」を行うことが教師の役割だと考えられている。しかし、日本における教師の役割は「授業」に限らず、生徒指導等も含まれているため、教師の役割を「授業」に限定して考えることは実情に見合わない。「授業」を通して多様な価値観に触れることもできると思うが、学校生活の中で多様な価値観に触れることも多いと思われる。日本における教師の役割には、子どもたちが多様な価値観に触れられるようにサポートすることや子どもたちが自らの教育体験を振り返る機会を提供することも含まれると考える。

### Information

#### 【書籍】

- ・ 佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年。
- ・ 久富善之『教師の専門性とアイデンティティ—教育改革時代の国際比較と国際シンポジウムから—』勁草書房、2008年。